

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

この学力調査は、平成29年4月18日に中学校3年生を対象に実施したものです。また、本分析・考察は全国（公立）及び県（公立）平均との比較をベースにしたものであり、一定の基準をもとにした優劣や、昨年度と比べた経年変化を表すものではありません。

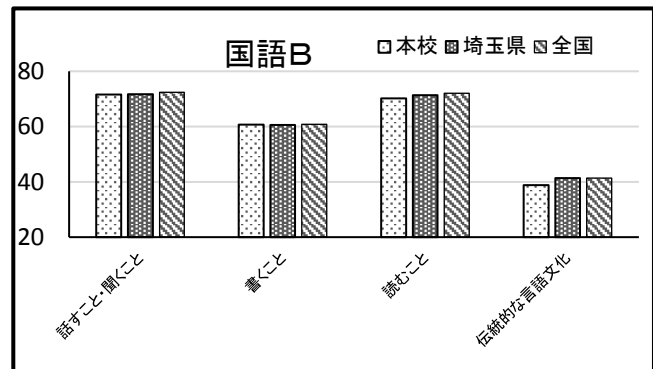
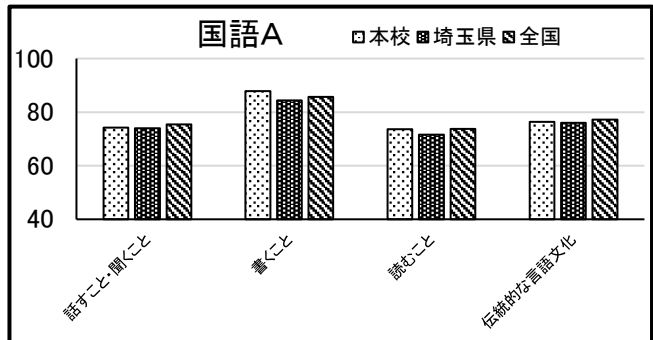
1 国語の課題と解決に向けての方策について

基礎的な知識を問うA問題では、すべての項目で県平均を上回り、書くことは全国平均を上回りました。活用力を問うB問題では、読むこと・伝統的な言語文化で県・全国平均を下回っています。

以前より課題であった書くことについては対策を立てて取り組んできた結果、今回の成績につながったと考えます。引き続き、継続し、国語力をつけていくため、次のような取り組みを行っていきます。

- ①言語環境の整備（朝読書の実施、学級文庫の充実、学校図書館整備）
- ②単元ごとの作文指導の導入（鑑賞文、登場人物への手紙、紹介文、意見文、テーマ作文）
- ③定期テストでの聞き取り問題の設定と授業での話し合い活動の充実
- ④古典の内容を含めた国語教養を高める工夫（百人一首の取り組み、視聴覚教材を使った内容説明の工夫）

正答率のグラフ



2 数学の課題と解決に向けての方策について

数学の基礎的な知識を問うA問題とそれを活用する力を問うB問題の正答率を項目ごとに比較してみると、数と式では基礎的な計算力はあるがそれを活用する力に課題があることがわかります。図形については基礎的な知識・技能の定着に課題がみられます。関数と資料の活用では、基礎的な知識・技能の定着ができていない生徒はそれを活用できているということがわかったので、第一に各項目とも基礎的な知識・技能の定着に力を入れたいと考え、以下の取り組みを行っていきます。

- ①計算力や解き方を定着させるための演習問題の充実（教科書や問題集以外のプリント計算問題、詳しい解説がある解答の準備（定期テストも含めて））
- ②方程式等の文章問題の工夫（解決への必要感を持たせられるもの）
- ③基礎問題の苦手な生徒への定期テスト前の補習の実施

